

「きみ」

見つけた

独り街を行く きみの丸

い背中

なんとも暗い影を背負

っていて

この大都会の中でやけ

に目に付く

不貞腐れた横顔は

冷たいコンクリートに

向かって

俯いたまま

きみは徐々に歩を速め

る

その生き急ぐような速

度は

雑踏にはまるで無関心

なようだ

ああ きみは何処へ

歩いて行くのだろうか

か？

きみを目で追う この僕も
街を行き交う人々には
全く無関心だけど
この街には きみのよう
な人間が
いったいどれほどいる
のだろうか
きみが誰であろうと構
わない
無性にきみを追いかけて
みたくなったら僕は
残ったコーヒーを飲み
干して
いそいそとカフェを出
て
きみと同じ方向に街を
急いだ
そしてきみの背中だけ
を見つめていたんだけど
ど
人波に揉まれているう

ちに

とうとうきみを見失って
しまった

興が醒めたように僕は
踵を返し

きみとは反対方向に
きみと同じような歩き
方で

歩きはじめた

なんだか僕は自分を
見失ってしまったよう
な気がした

ああ 僕は何処へ

歩いて行くのだろうか？

誰かが僕のことを見つ
けてくれるだろうか？